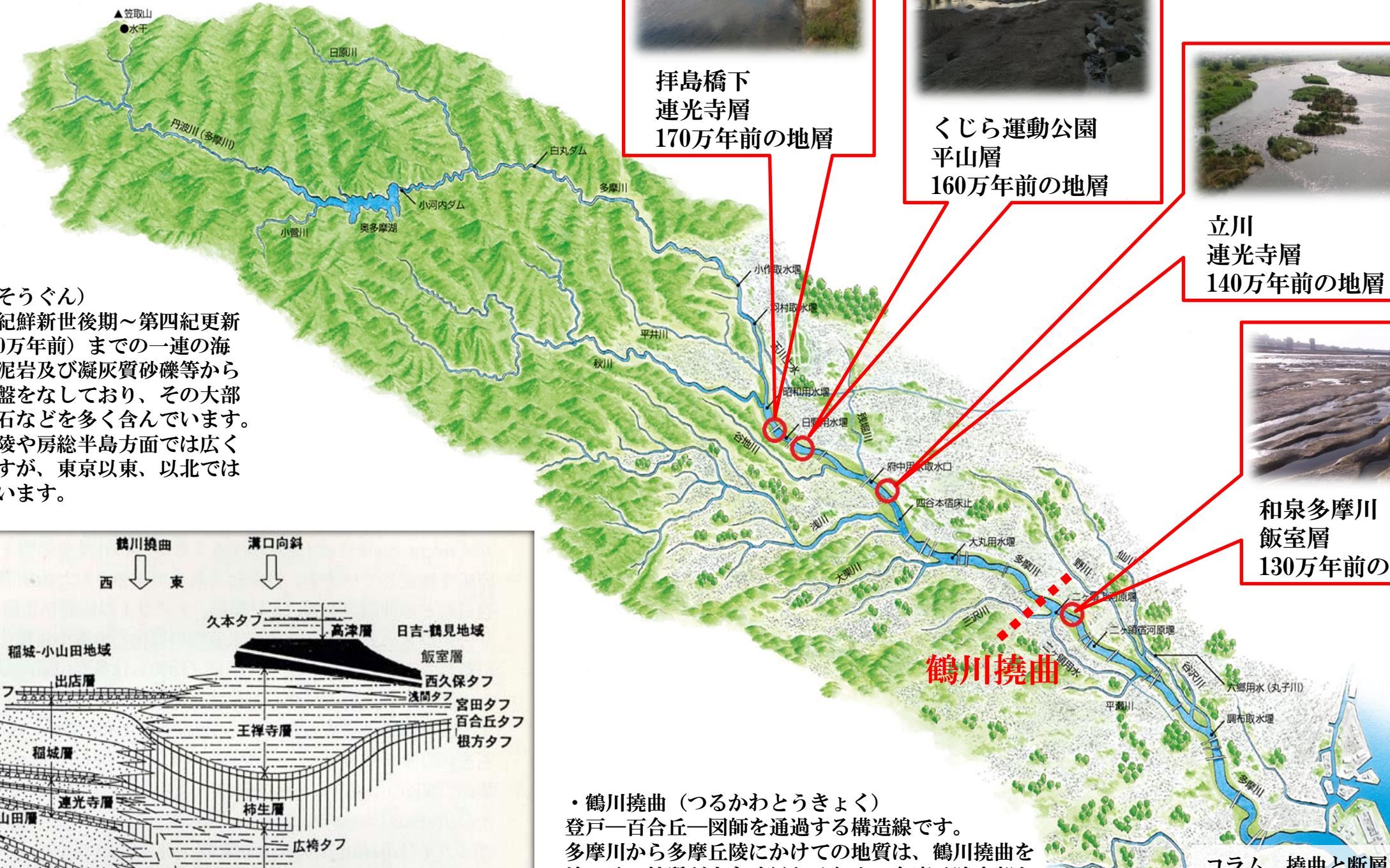
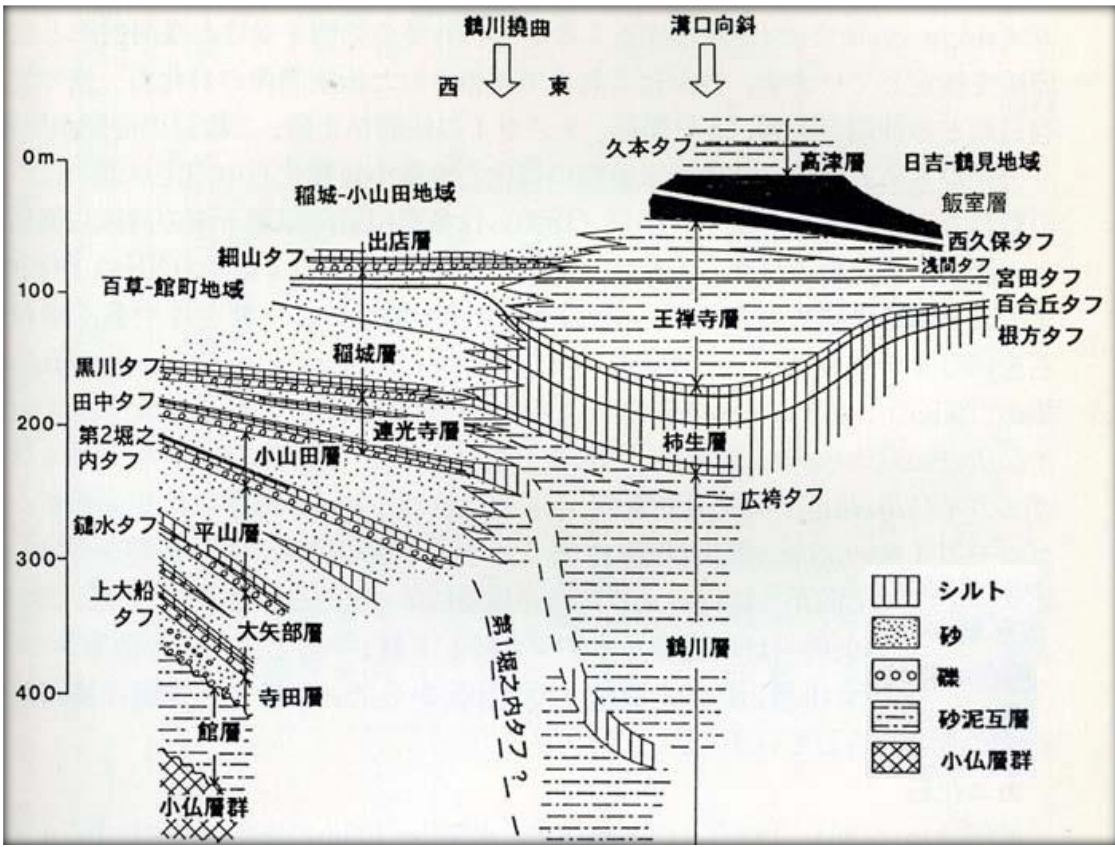


多摩川流域化石MAP



・上総層群 (かずさそうぐん)
上総層群とは、第三紀鮮新世後期～第四紀更新世中期 (280万年～50万年前) までの一連の海成堆積層で、砂岩、泥岩及び凝灰質砂礫等からなり、関東平野の基盤をなしており、その大部分に貝化石や生痕化石などを多く含んでいます。多摩川以南の多摩丘陵や房総半島方面では広く地表に露出していますが、東京以東、以北では地下深くにもぐっています。



・鶴川撓曲 (つるかわとうきょく)
登戸—百合丘—図師を通過する構造線です。多摩川から多摩丘陵にかけての地質は、鶴川撓曲を境にその性質が大きく異なるため、多摩丘陵東部と西部で異なる区別がされています。登戸より上流にある中流域は西部の区分で説明されて、下位より、寺田層、大矢部層、平山層、小山田層、連光寺層、稲城層、出店層と区別されます。

コラム 撓曲と断層
撓曲と断層の違いは、地層のずれを引き起こす力の強さであり、力が弱く地層が柔らかい時、地上部まで引く力が伝わらず、地層がずれた時に上の柔らかい地層が曲がってしまった撓曲ができ、逆に力が強いときには曲がることなく地層がずれた断層ができます。